

北海道栗山高等学校

課程：全日制
学科：普通科
生徒数：116名

本校の目指す生徒像

- ・主体的に知性を磨き、豊かな情操を身につける生徒
- ・豊かな自然に親しみ、強固な心身を鍛えていく生徒
- ・勤労を愛し、奉仕の精神を持ち社会貢献できる生徒

本校の現状

素直な生徒が多いが、コミュニケーションスキルや人間関係の構築に課題を抱える生徒が見られる。
不登校状態の生徒に対するケアが必要である。

本校の取組の特徴

1. 専門家からの指導助言及び教員研修による、教職員のカウンセリング力向上
2. 日常から困り感を持つ生徒のストレス対処能力及びコミュニケーションスキルの育成

取組の内容

○ 自殺予防教育の取組

1. 専門家からの指導助言及び教員研修による、教職員のカウンセリング力向上

北海道医療大学の富家教授から生徒の学校や家庭でのストレスの発生メカニズムを解説していただき、生徒を適切に導くための指導方法を学んだ。また、ほっと及びほっとプラスの分析を通して、特に注意を要する生徒の把握を行い、生徒指導に役立てることができた。

2. 日常から困り感を持つ生徒のストレス対処能力及びコミュニケーションスキルの育成

(1) 全校生徒に対して、5月と12月の2回、教育相談週間を実施し、全ての教職員が生徒と面談を行った。生徒の日常の不安や悩み等を聞き出し、課題を把握し、全教職員で情報共有を図った。

(2) 「社会性向上トレーニング」として、集団カウンセリングを行い、ストレスへの対処について学習した。これに合わせて、保健体育の授業では自殺予防の観点から、意思決定と行動について指導を行い、心の問題について考えさせた。

(3) 人間関係を考えるワークショップとして、富家教授からアサーショントレーニングの重要性を優しく、分かりやすく生徒に指導していただいた。生徒は、集団の中の自分をどのように表現し、人間関係を構築すべきかについて学んだ。



取組の成果等

○ 成果

専門家からの指導助言及び研修により、教職員の傾聴能力が高まり、生徒をしっかりと理解し、支えようとする気持ちが醸成されるとともに、ほっと及びほっとプラスの分析を通して、特に注意を要する生徒を把握し、指導に役立てることができた。

ストレス対処能力及びコミュニケーションスキルの育成により、生徒間に互いを気遣う心が芽生え、クラスの団結力が向上し、良好な人間関係の構築ができた。

○ 課題

生徒の自己肯定感を高めるために、地域の関係団体との調整を図り、本校生徒のコミュニケーション能力の向上に向けた取組をさらに進める必要がある。

○ 次年度に向けて

地域の小中学校、介護学校や老人施設との調整を図り、連携していくことによって、生徒の自己効力感を高めていくとともに、本校生徒として相応しい「人間力」の育成を図る。